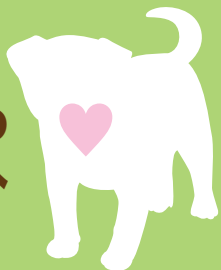


わんちゃんの
オーナーさまへ



心臓の病気について

犬では高齢になるにつれ、心臓病が増加します。
このような症状が見られたら
「心臓病」かもしれません。

✓ なんとなく
元気がない



✓ 咳が続いている



✓ 疲れやすくなった



✓ 運動後、
すぐ息切れする



✓ 食欲が落ちた



✓ 呼吸数が多い
(40~50回/分)



どれか1つでも気になることがあれば、
検査を受け、早期発見を心がけましょう。

富士フィルム VETシステムズ株式会社

Q&A わんちゃんの 心臓病について

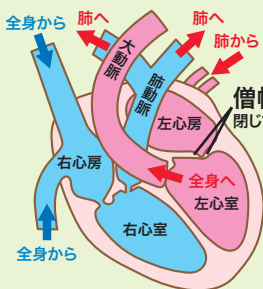
Q 犬で多い心臓病は？

A 僧帽弁閉鎖不全症です。
そうぼうべんへいさふぜんしょう

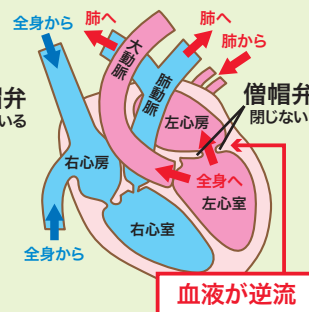
Q 僧帽弁閉鎖不全症とは？

A 僧帽弁の開閉が上手くいかず、血液が逆流
するためおきる疾患です。

■ 正常



■ 僧帽弁閉鎖不全症



Q どのような治療をしますか？

A 心臓に負担がかかっている状態なので、
心臓病の薬を飲んだり、重症の場合は手術
をすることで、症状の緩和につながるものが
多いです。

Q どんな検査が必要ですか？

A 聴診・胸部レントゲン検査・心臓の超音波
(エコー)検査・血液検査などを行い、心臓
のサイズや心機能状態を確認します。
主治医の先生へご相談ください。

心臓病に
なりやすい
犬の種類

高齢のオスで多い
比較的小型犬で多い

- キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル
- ダックスフンド ● チワワ ● マルチーズ ● シーズー
- パピヨン ● トイ・プードルなど



キャバリア・キング・
チャールズ・スパニエル

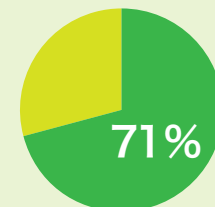
チワワ

マルチーズ

トイ・プードル

血液検査で心臓の状態を
予測することができます。

8歳以上の犬における心臓検査異常値(%)^{※1}



※1 2017年に富士フィルム VETシステムズ株式会社の検査を受けた全
国の犬検体に対する調査結果より。心臓検査項目ANPの結果を使用。
年齢上昇に伴い、心臓検査異常値は増加します。異常値の場合
は精密検査が必要です。

※2 ここでの異常値とは、当社の参考基準範囲から外れた値を意味します。

愛犬と楽しく豊かな
生活を送るために、
年に1~2回は
動物病院へ行き、
健康診断を受けましょう!

